

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次
教員氏名	牧田 直子					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)	
授業概要	この授業では造園学分野においての応用科目として位置づけ、造園家として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高め、論理的に分析する能力を身につけることを目的とする。 造園関連の学協会誌から、研究内容を読み解く。現地調査を体験する。 過去の学習、得られた知識等を振り返り、ポートフォリオを作成する							
関連する科目								
授業の進め方と方法	各自が選択した既往論文を講読し、研究の意義役割を確認し、研究方法の妥当性や応用性について意見を述べ合います。既往論文については教員が解説します。 各自のテーマに沿って調べてきた内容をプレゼンテーションしてもらい、意見を述べ合います 実際に庭園を見学し調査を行います。							
授業計画	1 ガイダンス この講義の進め方、卒論までのプロセスなどを解説します。 2 植栽管理 フィールドセンター内の花壇や温室の植物の管理を行います。 3 論文総論 レポートとの違い、計画の立て方、既往論文の探し方について解説します。 4 研究総論① 各自が探してきた既往論文を講読します。論文の構成と論文マナーについて解説します。 5 研究総論② 3とは別の視点で各自が既往論文を探してきて講読します。論文の目的、研究方法、結果について考察します。 6 研究テーマの検討① 各自が興味のある研究内容や既往論文について発表します。その研究の役割や妥当性を考察します。 7 研究方法① アンケート調査とその分析方法について学びます。 8 研究方法② 文献調査とそのまとめ方について学びます。図書館を利用します。 9 研究テーマの検討② 6-7を学習したうえで各自が興味のある研究内容や既往論文について発表します。 その研究の役割や妥当性を考察し、自身の研究テーマについて検討します。 10 庭園調査(学外) 庭園を実際に調査します。 11 庭園調査(学外) 9に続いて実施します。 13 研究テーマに沿った資料作成① 検討している研究テーマに沿った内容を調べてきて発表してもらいます。 不足分やさらに調べるものについて指導します。 14 研究テーマに沿った資料作成① 13で不足したもの、追加の情報を得ます。 検討している研究テーマに沿った内容を調べてきて発表してもらいます。 15 ポートフォリオ作成 ポートフォリオについて、役割や作り方、使い方を解説します。ポートフォリオを作成します。 順番は変更になることがあります。							
授業の到達目標	演習後に出された課題を解決する。 自分の興味関心がある庭園に関する文献を読んで学ぶ(雑誌・作品鑑賞・テレビ視聴なども含む)。 過去の研究室卒論から興味関心のあるテーマを選択し読む。 研究テーマに基づいて文献リサーチや調査をおこない報告を行う。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】							
授業時間外の学修	演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、造園家に不可欠な素養を高めることが期待される							
課題に対する フィードバック	レポートの返却			評価方法		毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する(全体で100%)。		
テキスト	プリント資料を配布する							
参考書	作品選集 技術報告集 ランドスケープ研究（日本造園学会）など							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次	
教員氏名	山口 雅篤				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	研究室に所属したばかりの学生に対して、これまでに研究室で行ってきた研究概要を説明し、研究室のテーマ(園芸植物の品質特性及び遺伝資源の解析)に関連する基礎知識の習得を目的に、専門の基礎となる専門書や総説などの輪読を行います。また、レポートのテーマを与えて、口頭でのプレゼンテーションを各自が行えるように指導します。							
関連する科目	植物学、植物生理学、生化学、園芸利用学、植物バイオ・育種実験も履修することが望ましいです							
授業の進め方と方法	授業で配付する資料を全員参加して読み上げていただき、資料に関連する項目について、講義中に質疑応答を取り入れて行きます【コミュニケーションの育成】。授業計画の各回毎に授業の項目の意義や重要性を確認します。資料として教材に用いる写真や図は、出来るだけパワーポイントを用いて解説します。口頭発表は、こちらでテーマと論文を選び、事前にうち合わせを個別に行います。							
授業計画	第1回 研究概要の説明 第2回 研究テーマの説明1 第3回 研究テーマの説明2 第4回 園芸植物の品質特性 第5回 園芸植物の遺伝資源 第6回 植物代謝生理 第7回 植物色素の生理・生化学 第8回 植物色素の分析法 第9回 総説の輪読1 第10回 総説の輪読2 第11回 総説の輪読3 第12回 レポートの口頭発表1 第13回 レポートの口頭発表2 第14回 レポートの口頭発表3 第15回 まとめ							
授業の到達目標	研究室での研究テーマの内容を理解し、関連する基礎的な知識の習得を目指します。また、専門の分野(園芸植物の生理・生化学および園芸植物の成分特性)の総説や専門書の内容を理解する方法を身につけることも目標とします。さらに、総説の紹介を口頭発表で行う方法の習得も目指します。							
授業時間外の学修	【予習】 あらかじめ次回の授業項目を伝えるので、各自で参考書等を活用して予習を約30分行うようにして下さい。 【復習】 ノート、資料、参考書等を参考にして復習を約1時間行うようにして下さい。 ・授業の終わりに復習として時々小課題を課し、次の講義の前に解答をします。 ・不明な点についてはオフィスアワーを活用して担当教員に質問するようにして下さい。							
課題に対する フィードバック	与えた課題については、講義の前に前回の課題の解答を行って、講義の中に関連付けて取り入れていきます。			評価方法		2 課題のレポートを課して、100点満点で評価します。		
テキスト	なし(必要に応じて適宜、参考資料としてプリントを配布します)							
参考書	植物色素研究法 植物色素研究会 OMUP(2004) アントシアニン 大場理一朗著 建帛社(2002) 園芸生理学 山本昭平著 文永堂出版 植物代謝生化学 水谷正治ら編 羊土社(2019)							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	陳 蘭庄					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	園芸生産専攻にかかわる国内外の研究論文を中心に輪読し、そのバックグラウンドや研究手法、研究成果について総合的に理解・習得することを目的としています。特に植物の種類には捉われず、幅広く吸収・活用できるようになるよう、目標としています。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育することを行います。担当教員について、中国河北省農林科学院経済作物研究所にて、河北省蔬菜遺伝資源の探索、収集、調査、評価および「河北省蔬菜品種誌」の編集に携わりました。科学技術特別研究員として農林水産省農業生物資源研究所と九州農業試験場にてアフリカから収集してきたイネ科牧草を用いてアポミクシス性特異的遺伝子のクローニングとその構造解析を行いました。現場で培ってきた遺伝資源植物の扱い方や、苦労話、利用価値、重要性などについて、リアリティをもって学生に伝えたいと考えています。【知識・理解を応用し活用する能力】、【汎用的技能を応用し活用する能力】、【人間力、社会性、国際性の涵養(態度・志向性)】								
関連する科目	「蔬菜園芸総論」、「蔬菜園芸各論」を中心に、園芸生産専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、卒業研究テーマを実施するため、関連する知識やスキルを専攻演習で学びます。								
授業の進め方と方法	研究室で進めているそれぞれの研究テーマに関係ある論文を例として、計画に沿って発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりします。そういうことをして、初めて自分の研究テーマにもフィードバックでき、参考になったりしてスムーズに自分の研究テーマを進めることに繋がります。と同時に、他人の研究テーマについても勉強でき、将来的に就職にも繋がります。								
授業計画	以下の内容で講義を行う。 第1回～第3回 1、学術論文の選別および精読、2、専攻生による発表、3、総合討議と取り纏め； 第4回～第6回 1、学術論文の選別および精読、2、専攻生による発表、3、総合討議と取り纏め； 第7回～第9回 1、学術論文の選別および精読、2、専攻生による発表、3、総合討議と取り纏め； 第10回～第12回 1、学術論文の選別および精読、2、専攻生による発表、3、総合討議と取り纏め； 第13回～第15回 1、学術論文の選別および精読、2、専攻生による発表、3、総合討議と取り纏め；								
授業の到達目標	講義で解説したそれぞれの課題を例にして、専攻生自身が自分の研究に対して、研究計画の立案、材料および方法、データのまとめ、図表の作成、結果に対する考察・評価など、研究論文の書き方に関した一連のノウハウを活用して自分の卒業論文のシミュレーションをレポートとして作成できることを目標とします。								
授業時間外の学修	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決します。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにします。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧めます。事前と事後の勉強する時間はあわせて1時間くらいあればと考えます。								
課題に対する フィードバック	それぞれの研究テーマの発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりします。レポートは評価後、返却及び解説をします。				評価方法	毎回レポートを提出してもらいます。最終的に取り組む態度(40%)とレポート(60%)をみて総合的に判断します。			
テキスト	特にありませんが、状況を見て随時、指定します。								
参考書	適宜紹介します。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	杉田 亘					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験および教養科目等で習得した知識を基に、育種を行う上で必要な育種目標や育種法の組立てなどについて深化させるとともに、育種に関連した話題についてのディベートを通して論理的思考を養い、遺伝学、育種学、バイオテクノロジーに関する演習問題を解いて自分の言葉で簡潔に発表する力を養うとともに、卒論研究を進めるための基礎力を強化します【知識・理解の獲得】。なお、本演習については、生産現場における普及活動や品種育成などの試験研究業務に関する実務者経験を活かした授業を行います。								
関連する科目	履修前に植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験を受講していることが望ましい。								
授業の進め方と方法	育種学的テーマに基づき、育種目標や育種法の組立てなどについて議論を深化させるとともに、育種法や育種技術に関連した話題についてのディベートを積極的に行い、論理的思考の構築、コミュニケーション能力の向上を図ります。また、遺伝育種学、バイオテクノロジーに関して自分の言葉で簡潔に発表する力を養います。								
授業計画	第1回 育種演習Ⅰの概要:本演習に係る概要を説明する。 第2回 ディベート1:育種目標の設定について学習する。 第3回 ディベート2:育種方法の選択について学習する。 第4回 ディベート3:育種と進化について学習する。 第5回 ディベート4:遺伝子組換え植物について学習する。 第6回 遺伝育種学演習Ⅰ:遺伝資源について学習する。 第7回 遺伝育種学演習Ⅱ:検定交雑について学習する。 第8回 遺伝育種学演習Ⅲ:連鎖・組換え価について学習する。 第9回 遺伝育種学演習Ⅳ:遺伝率について学習する。 第10回 遺伝育種学演習Ⅴ:まとめ総合討論を行う。 第11回 バイオテクノロジー演習Ⅰ:DNAマーカーの育種への適用について学習する。 第12回 バイオテクノロジー演習Ⅱ:DNAマーカーの応用について学習する。 第13回 バイオテクノロジー演習Ⅲ:遺伝子組換えの育種への適用について学習する。 第14回 バイオテクノロジー演習Ⅳ:まとめ総合討論を行う。 第15回 卒論研究プラン:卒論研究計画策定に向けて検討する。								
授業の到達目標	園芸植物の育種に関する課題を中心に科学論文について、論文の様式、論文を読み取る力、要点をまとめる力、明確に発表する力を養い、研究遂行のための基礎力を習得します。								
授業時間外の学修	授業前:卒論テーマに関連する学会誌に掲載された研究論文を読み込んでください(毎回1~2時間程度) 授業後:卒論の引用文献として蓄積をしてください(毎回0.5時間程度)								
課題に対する フィードバック	受講者に対して授業中に質問を行い、受講者自身の理解度の確認を行うとともに、内容について説明を行います。また、その結果に基づき、授業内容の確認を行います。			評価方法		各回の発表について、ポイントの把握と理解度、問題解決力、発表能力、質問への応答の的確さを評価します。			
テキスト	育種学会誌(Breeding Science, 育種学研究) 園芸学会誌(The Horticulture Journal, 園芸学研究)他								
参考書	植物育種学辞典 日本育種学会 培風館(2005)								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2		配当学年	3年次	
教員氏名	山口 健一				学位授与の方針 との関連		DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	環境保全型農業論, 環境保全園芸論等の講義や関連する実験・実習等で習得した知識をもとに, 環境保全園芸学に関する研究の実例を学術論文・書籍等(和文)を教材として議論し, 専門分野の背景や手法, 現状について理解することを目的とする。【汎用的技能の育成】								
関連する科目	卒業論文、専攻演習Ⅱ、専攻演習								
授業の進め方と方法	事前に提示した課題について自ら学び、ゼミ形式でプレゼンテーションを行う。本授業では、受講生と指導教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習として行う。								
授業計画	授業は概ね以下の内容で進行する。 第01回 授業の進め方とプレゼンテーション例 受講生の課題を決め、発表方法について学ぶ。 第02回 課題に対する受講者のプレゼンテーション・質疑応答(専攻生) 課題ごとに発表スキルを身につけ、質疑応答方法を学ぶ。 第03回 同上(専攻生順次) 第04回 同上 第05回 同上 第06回 同上 第07回 同上 第08回 まとめ(Ⅰ前半) 前半の研究課題の背景を理解、共通認識する。 第09回 課題に対する受講者のプレゼンテーション・質疑応答(専攻生) 課題ごとに発表スキルを身につけ、質疑応答方法を学ぶ。 第10回 同上(専攻生順次) 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 まとめ(Ⅱ後半) 後半の研究課題の背景を理解、共通認識する。								
授業の到達目標	科学論文(和文)について、読解力及び要点を纏めて発表する力を身につける。【専門分野のスキルの獲得】								
授業時間外の学修	【予習】予め次の課題をアナウンスするので、各自で予習を行う(論文事前配布)。(1時間程度) 【復習】授業で用いた学術論文の内容について受講生各自で毎回復習する。(30分程度) なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して学びを深める。								
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションについて、優れている箇所や改善が必要な点等を理由を付して講評する。			評価方法		各プレゼンターについて理解度及び発表力(50点)を、その他については質問の的確さ及び受講態度(50点)を総合的に評価する。			
テキスト	受講生各自の課題(論文)を第1回授業で発表、配付する。								
参考書	課題毎に関係する書籍・論文等を適宜紹介する								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	前田 隆昭					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	本演習では、果樹園芸学に関連する学術論文を読み、内容を簡潔にまとめて発表します【汎用的技能の育成】。毎回、専攻生が持ち回りで発表を行います。発表は、論文1報を理解したうえで、相手にわかりやすいように図表などを用いながら紹介できるようになることを目標としています。								
関連する科目	専攻演習Ⅱ・Ⅲ								
授業の進め方と方法	毎回、専攻生がパワーポイントを用いて、果樹園芸学に関連する論文を簡潔にまとめてプレゼンを行います【汎用的技能の育成】。その後、質疑応答の時間を設け、ディスカッション等により学びを深めていきます。本授業は、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式とする。								
授業計画	1. ガイダンス(スケジュール、評価、概要説明) 授業のスケジュールおよび評価方法、概要を説明します。 2. 学術論文について説明 学術論文の構成および書き方について学びます。 3. 図表の説明 学術論文の図表の書き方について学びます。 4. 統計処理の方法 統計処理について学びます。 5. 論文紹介および発表 6. 論文紹介および発表 7. 論文紹介および発表 8. 論文紹介および発表 9. 論文紹介および発表 10. 論文紹介および発表 11. 論文紹介および発表 12. 論文紹介および発表 13. 論文紹介および発表 14. 論文紹介および発表 15. 論文紹介および発表 学術論文を紹介するとともに、その内容について専攻生がプレゼンを行います。								
授業の到達目標	論文の構成を理解し、自分でまとめて発表する力を養います。【専門分野のスキルの獲得】【汎用的技能の育成】								
授業時間外の学修	次回の論文を読み、知識を深めておいて下さい。								
課題に対する フィードバック	毎回、プレゼンについての指導を行います。			評価方法		以下の項目に基づいて評価します。 1)受講態度—50点 2)発表内容—50点			
テキスト	特にありません。(毎回資料を配布します。)								
参考書	特にありません。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	平岡 直樹					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	本授業の目的は、造園緑地専攻の応用科目として位置づけられ、造園家として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高めることです。 造園関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地見学等が各研究室ごとにあるいは研究室合同で行われます。認識力や表現力ならびにプレゼンテーション能力を高めることが期待されます。								
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲ、卒業論文が一連の授業体系を構成しています。								
授業の進め方と方法	まず造園の基礎的概念や用語を復習します。続いて研究とはどのようなものでどのように行うのかを実際の研究を参考にしながら学びます。同時に、論文の書き方や注意点などのについても学んでいきます。ほとんどの授業にてテーマに沿ってまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行います。								
授業計画	1 ガイダンス（演習の進め方、参考文献紹介、造園家を仕事・役割の再認識） 2 造園の基礎知識（文献講読） 3 造園の基礎技能（ヒーリングガーデンの維持管理） 4 造園の応用知識 その1（文献講読） 5 造園の応用知識 その2（テキスト演習） 6 造園の応用技能 その3（ヒーリングガーデンの維持管理） 7 造園の応用知識 その4（事例研究） 8 造園の応用知識 その5（事例研究） 9 造園の技能 技能士関連の演習 その1 10 造園の技能 技能士関連の演習 その2 11 造園計画演習（作図、読図演習） 12 造園緑地の情報収集 その1（WEB） 13 造園緑地の情報収集 その2（フィールド調査） 14 造園緑地の情報収集 その3（フィールド調査） 15 造園緑地の計算処理（よく使う数式等を用いた演習）								
授業の到達目標	1) 地域景観について体系的に学び、地域とはどんなものか、景観が地域の中でどのような役割を果たしているかを知ります。【専門分野のスキル】 2) 地域景観の調査や計画にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につけます。【課題発見・分析・解決力】 3) 演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、技術者として不可欠な素養を高めます。【プレゼンテーション力】【実践力】								
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な地域論や景観論、造園学に関する資料を授業前に読んでおいてください。授業後に理解が曖昧な時は再度精読してください。また、自らの地域や景観についての知見を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な地域社会や自然地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて考察を深めてください。予習復習2時間程度必要です。								
課題に対する フィードバック	課題は、提出前にチェックを受けてください。 次回以降に返却します。必要がある時はコメントします。			評価方法		毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。			
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍								
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介します。主なものの一部を以下に示します。 造園施工管理技術編/社団法人 日本公園緑地協会 ランドスケープ研究 日本造園学会 など								
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に紹介します。								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	姜 暲求					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	日韓の農産物及び食品貿易額は双方にとって決して大きくないが、最終消費財として直接消費者に販売されている。演習では日韓の農産物および食品の生産・流通・消費を比較した後、両国間の農産物および食品貿易について学ぶ。								
関連する科目	農業経済学、農産物流通原論、農産物流通論								
授業の進め方と方法	課したテーマについて、ゼミ生が報告・発表する。								
授業計画	1. ゼミの紹介 2. 日韓の農業および食品製造業生産基盤 3. 日韓の農業および食品製造業生産基盤比較 4. 韓国の農業生産政策 5. 日本の農業生産政策 6. 韓国の農産物流通 7. 日本の農産物流通 8. 韓国の外食の現状および推移 9. 日本の外食の現状および推移 10. 韓国の農産物・食品家計消費および消費者購入行動 11. 日本の農産物・食品家計消費および消費者購入行動 12. 韓国と世界との農産物・食品貿易 13. 日本と世界との農産物・食品貿易 14. 日韓両国間の農産物・食品貿易 15. ゼミのまとめ								
授業の到達目標	日韓の農産物生産・流通・消費の違いを理解する。								
授業時間外の学修	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構(ジェトロ) https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO(国連食糧農業機構) http://www.fao.org/home/en/ などを1時間ほど検索し、日本と韓国の農業及び食品産業に関する知識を得る。								
課題に対する フィードバック				評価方法	発表(50%)や討論(50%)で評価する。。				
テキスト									
参考書	日韓の農業および経済関連政府機関、研究機関のホームページ。WTOおよびFAOのホームページ。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2		配当学年	3年次	
教員氏名	廣瀬 大介					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	本講義では、学会誌(主として日本作物学会記事と日本草地学会誌)を参考にして学術論文の構成や書き方、さらには、研究データの基本的な取りまとめ方法について教授します【知識・理解の育成】。								
関連する科目	特にありません。								
授業の進め方と方法	毎回、アクティブラーニング型授業を実施します。								
授業計画	第1回目 学術論文とは何か？ 学術論文とは何かを学びます。 第2回目 学術論文の基本構成 学術論文がどのように構成されているのかを学びます。 第3回目 緒言とは？ 学術論文における緒言とは何かについて学びます。 第4回目 材料と方法とは？ 学術論文における材料と方法とは何かについて学びます。 第5回目 結果とは？ 学術論文における結果とは何かについて学びます。 第6回目～第7回目 考察とは？ 学術論文における考察とは何かについて学びます。 第8回目 謝辞とは？ 学術論文における謝辞とは何かについて学びます。 第9回目 引用文献とは？ 学術論文における引用文献とは何かについて学びます。 第10回目～第11回目 グラフの書き方 学術論文におけるグラフの書き方について学びます。 第12回目～第13回目 表の書き方 学術論文における表の書き方について学びます。 第14回目～第15回目 統計処理の意義 学術論文における統計処理について学びます。								
授業の到達目標	基本的な学術論文の書き方や研究データのまとめ方について理解することを目標としています。								
授業時間外の学修	予習:参考書を基に学術論文とは何かを理解できるよう準備してください。 復習:教授されたことと参考書と比較し整理してください。 予習:1時間、復習:1時間(最大)								
課題に対する フィードバック	毎回、各自に質問をして、回答を求めますが、その回答に対して補足説明をします。			評価方法		受講態度(50点)、質問に対する回答力(50点)			
テキスト	必要に応じて配布します。								
参考書	日本作物学会記事, 日本草地学会誌(いずれも最新版)								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次	
教員氏名	菅野 善明				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	本演習では植物の病原体の分離・同定・診断の基本技術の習得を目的とします。 植物の病気の生物学的要因である、糸状菌・細菌・ウイルスを実際に取り扱い分離、培養方法、形態観察、各種診断法の実験手法の知識と技術を習得します【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。							
関連する科目	微生物学、植物病理学、遺伝子工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験を履修していることが望ましい。 また、度同時期に開講される総合防除論を履修することが望ましい。							
授業の進め方と方法	授業計画の各項目について講義した後、実際に実験を実施し知識と技術を習得します。各実験についてはマニュアルを配布し、自分自身で実験が行えるようにします。また、演習ノートを準備してもらい、実験内容を記録し理解に繋がります【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。							
授業計画	1. 病原体の分類:糸状菌 どのような糸状菌が存在し、どのように分類されているか学びます。 2. 病原体の分類:細菌 どのような細菌が存在し、どのように分類されているか学びます。 3. 病原体の分類:ウイルス どのようなウイルスが存在し、どのように分類されているか学びます。 4. 病原体の分類:ウイロイド・ファイプラズマ どのようなウイロイド・ファイプラズマが存在し、どのように分類されているか学びます。 5. 病原体の培養:培地の作製 糸状菌。細菌を分離・培養するために必要な培地の作成方法を学びます。 6. 病原体の培養:無菌操作 糸状菌。細菌を分離・培養するために必要な無菌操作を学びます。 7. 病原体の培養:病原体の分離・培養 糸状菌。細菌を分離・培養を行実際に行います。 8. 病原体の形態観察:糸状菌 糸状菌の分類・同定に必要な形態観察について学びます。 9. 病原体の形態X観察:細菌 細菌の分類・同定に必要な形態観察について学びます。 10. 病原体の形態観察:ウイルス ウイルスの分類・同定に必要な形態観察について学びます。 11. 病原体の生物検定 病原体の存在・種類を明らかにするために必要な生物検体について学びます。 12. 病原体の血清学的診断 病原体の血清診断の原理ろ実際について学びます。 13. 病原体の遺伝子診断 病原体の遺伝子診断の原理ろ実際について学びます。 14. 病原体の圃場診断 発生した病気の圃場診断の考え方・実際について学びます。 15. まとめ これまでの講義を総括するとともに病原体の分離・同定の意義について学びます。							
授業の到達目標	・各種病原体の特徴を理解し、その取扱い方法を習得する。 ・病原体の同定のための分類基準を理解するとともに分離・同定・診断の基本技術を習得する。							
授業時間外の学修	【予習】各回の項目について、あらかじめ資料を配布するので、内容を精読し理解を深めてください。 【復習】実験後、結果および考察を演習ノートに記載し提出してください。							
課題に対する フィードバック	実験の結果および考察について受講者と教員が議論し、理解を深めます。			評価方法	同定基準の理解度・分離・同定・診断の基本技術の習得度を総合的に評価します。(100点)			
テキスト	必要に応じて作製した資料を配布します。							
参考書	微生物の分類・同定実験法(丸善)鈴木健一郎(2012)							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次	
教員氏名	川信 修治				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	蔬菜園芸学, 蔬菜園芸各論, 施設園芸学, 蔬菜関連の実験実習などの専門科目や教養の知識に加えた力を基礎に, 国内外の園芸学関連学会雑誌に掲載された研究論文を読み進め, 卒業論文の形式にまとめる。これらの論文を引用文献に加え, 論文を読む力と卒業論文を作成する力を養う。また, これらの研究論文に書かれた内容をまとめて人前で簡潔に発表する力を高めることを目的とする。							
関連する科目	園芸生産環境専門実習, 蔬菜園芸専門実習, 蔬菜園芸総論, 蔬菜園芸各論, 施設園芸学							
授業の進め方と方法	授業は、1回目に1～15回目までの演習の流れを説明して、各回ごとに配付資料を利用して、不足は板書で進めます。毎回メモ帳を準備して、レポートと資料作成をします。							
授業計画	第1回 論文の構成とネットからの論文検索法 第2回 トマトに関する論文紹介ゼミ(基礎部門) 第3回 トマトに関する論文紹介ゼミ(栽培部門) 第4回 トマトに関する論文紹介ゼミ(応用部門) 第5回 ナスに関する論文紹介ゼミ 第6回 メロンに関する論文紹介ゼミ(基礎部門) 第7回 メロンに関する論文紹介ゼミ(栽培部門) 第8回 メロンに関する論文紹介ゼミ(応用部門) 第9回 スイカに関する論文紹介ゼミ 第10回 イチゴに関する論文紹介ゼミ(基礎部門) 第11回 イチゴに関する論文紹介ゼミ(栽培部門) 第12回 イチゴに関する論文紹介ゼミ(応用部門) 第13回 カボチャに関する論文紹介ゼミ 第14回 キュウリに関する論文紹介ゼミ 第15回 上記以外果菜類に関する論文紹介ゼミ							
授業の到達目標	果菜類の専門用語と概要を身につけ、プレゼンテーション形式でまとめ発表できるようにする。							
授業時間外の学修	事前に学生担当の課題をもとに内容を確認し、発表できるように発表資料をとりまとめて毎回2時間程度予習をする。終了後に訂正された箇所を修正し、復習をかねて1時間程度学修する。							
課題に対する フィードバック	レポートと資料作成は、提出ごとに解説します。			評価方法		発表資料のまとめ(60点)と口頭発表の仕方(40点)で決める。		
テキスト	適時、使用する資料と材料を配布する。							
参考書	園芸学会雑誌を中心に施設園芸に関する論文を選ぶ。							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	日高 英二					学位授与の方針 との関連		DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)	
授業概要	自然環境専攻の応用科目として位置づけ、卒業研究および卒業論文作成に必要な知識・技能を高めることを目的とする。関連する学協会誌・テキストによる演習、樹種の判別能力の向上、樹勢判定および植栽地の環境調査の手法の習得などを行う。								
関連する科目									
授業の進め方と方法	文献購読や各種調査方法の体験を通じて、調査手法を習得する。それらをもとに卒業研究のテーマや調査内容を決定する。								
授業計画	1 ガイダンス 演習の進め方 2 自然環境の基礎知識（文献講読） 3 樹種の識別 その1（学内の樹木観察1） 4 樹種の識別 その2（学内の樹木観察2） 5 樹種の識別 その3（近隣公園等の樹木観察1） 6 樹種の識別 その4（近隣公園等の樹木観察2） 7 樹木の活力度・危険度の判定 8 環境調査法 その1（植栽位置図の作成1） 9 環境調査法 その2（植栽位置図の作成2） 10 環境調査法 その3（土壌環境の調査1） 11 環境調査法 その4（土壌環境の調査2） 12 自然環境の情報収集 その1（WEB） 13 自然環境の情報収集 その2（フィールド調査） 14 自然環境の情報収集 その3（フィールド調査） 15 データ整理の手法								
授業の到達目標	演習を通じて、自然環境の現状の認識力を向上させ、グループ作業による協調性など、卒業研究に必要な素養を高めることが期待される。								
授業時間外の学修	日常的に植物や自然環境を観察し、疑問点を整理する。 関係する文献等を読み、自然環境・樹木への理解を深める。：週60分								
課題に対する フィードバック	提出課題を評価後、返却し解説を行う。			評価方法		演習レポート100点			
テキスト	プリント等を配布								
参考書	造園施工管理技術編/社団法人 日本公園緑地協会 ランドスケープ研究 日本造園学会 など								
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に紹介								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	関西 剛康					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	この授業では、造園学における造園計画やフィールドワークの知識と技術の基礎を学びます。そして、造園計画が必要とされている社会的課題について学び、その解決策について考えます。 さらに、造園計画を通じて各自の専門職業人としての専門性を磨いていくために、ワークショップ、グループワーキング、フィールドワークも行います。 また、教員は技術士(総合技術監理部門、建設部門・都市及び地方計画)やRLA等の専門資格を有し、造園設計事務所において国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画した20年間の経験があります。そのキャリアを含めて、教員が実際に計画設計した造園作品の具体的な事例を解説しながらも、授業を進めます。								
関連する科目	履修後に「専攻演習Ⅱ」「専攻演習Ⅲ」「卒業論文」を履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施して行きます。毎回の授業構成は以下のとおりです。授業前半は講義をします【学術・知識のインプット】。授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表(問題解決学習、プレゼンテーション)等を行います【学術・知識の醸成とアウトプット】。								
授業計画	【ガイダンス】 第01回:授業のガイダンス 専攻演習Ⅰの概要説明と心得について説明する。 【ランドスケープ・アーキテクチャの基本】 第03回:ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的考察-1(世界編) 第04回:ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的考察-2(日本編) 第02回:ランドスケープ・アーキテクチャを取り巻く社会背景 ランドスケープ・アーキテクチャの歴史的ならびに社会的背景について学ぶ。 【フィールドワークの実践法】 第10回:フィールドワークの実践法-1(調査内容と着眼点) 第11回:フィールドワークの実践法-2(現地調査とその手法) フィールドワークによる調査手法や着眼点について学ぶ。 【ランドスケープ・アーキテクチャ作品論】 第05回:ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-1(日本庭園編) 第06回:ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-2(エクステリア編) 第07回:ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-3(都市公園編) 第08回:ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-4(アーバンデザイン編) 第09回:ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-5(緑のネットワーク編) 第12回:ランドスケープ・アーキテクチャ作品論-5(世界のランドスケープ編) ランドスケープ領域における専攻事例について学ぶ。 【ランドスケープ・プランの実践】 第13回:ランドスケープ・プランの実践-1(庭園編) 第14回:ランドスケープ・プランの実践-2(ランドスケープ編) ランドスケープ・プランの実践について学ぶ。 【総括】 第15回:専攻演習Ⅰのまとめと今後 ランドスケープ・プランについての全体像を把握する。								
授業の到達目標	1.造園学における造園計画の知識と技術の基礎的内容を修得することを目的とします。 2.また口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とします。								
授業時間外の学修	1. 授業で配布するテキストならびに参考図書等を授業前に精読しておくこと。 2. 授業後にさらに理解を深めるために再度精読すること。 3. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備しておくこと。 4. 予習復習は1時間程度行うこと。								
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。			評価方法		発表・研究した内容に関するレポート(100点)			
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布します。								
参考書	1.『ランドスケープ研究』日本造園学会誌2.『ランドスケープ研究作品集』日本造園学会誌3.『ランドスケープデザイン』マルモ出版 など								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次	
教員氏名	長江 嗣朗				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	現在、日本国内で花卉を対象にどのような事象が問題となっているのか、また実際に研究されているのかを学習する。次に、実際に国内で報告されている学術論文を紹介し、これまで行われてきた花卉を対象とする研究について学ぶ。この授業の目的は、まず国内における花卉の現状を知ることである。							
関連する科目	4年前期『専攻演習Ⅱ』、4年後期『専攻演習Ⅲ』、4年通年『卒業論文』							
授業の進め方と方法	授業では資料を配布し、グループディスカッションを行う。また配布する資料については、学生が持ち回りで作成する場合もある。							
授業計画	第1回：国内における花卉の現状1（主要作物の栽培） 第2回：国内における花卉の現状2（主要作物以外の現状） 第1～2回は、国内の花卉の生産状況や流通状況について詳細に学習する。 第3回：国内における花卉の課題1（病害虫） 第4回：国内における花卉の課題2（土壌肥料） 第5回：国内における花卉の課題3（気温、湿度、光） 第3～5回は、花卉の栽培について、現在の国内における手法を学び、さらにその課題について検討する。 第6回：和文雑誌の案内 第7回：論文における表現 第8回：論文における図表の見方 第6～8回は、日本語論文を紹介し、その意味が理解できるようにする。 第9回：雑誌の検索方法 興味のあるテーマの日本語論文が自分自身で探すことができるように学習する。 第10回：論文紹介① 第11回：論文紹介② 第12回：論文紹介③ 第13回：論文紹介④ 第14回：論文紹介⑤ 第10～14回は、具体的に日本語論文を複数紹介し、その内容について議論する。 第15回：まとめ							
授業の到達目標	国内の学術雑誌から必要なテーマの論文を自分で探すことができるようになり、概ね理解できるようになる。							
授業時間外の学修	ゼミでの発表のための要旨を作成し、わからない箇所を自分で調べておく。予習に5時間。							
課題に対する フィードバック	学生自身で解決できなかった課題に対しては、次回授業で詳説する。			評価方法	論文の紹介、論文の理解度から評価する。			
テキスト	特になし							
参考書	特になし							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○	
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2		配当学年	3年次	
教員氏名	新谷 喜紀				学位授与の方針 との関連		DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	この科目の主な目的は、各自が文献紹介をすることによって、プレゼンテーション能力を高めることです。また聞く側にとっては知識を伸ばすだけではなく、他人のプレゼンテーションから、プレゼンテーションの技法について啓発されることが期待できます。 紹介する文献は学術雑誌やインターネット上のもので、教員と相談して決めます。卒業論文のテーマが決まっていれば、関連性の深い文献を選ぶようにします。								
関連する科目	この科目を履修する前に、昆虫学、自然環境実習、動物分類学、動物生態学、有害動物各論(2021年度開講予定)、動物生理学を履修していることが望ましいです。								
授業の進め方と方法	この講義では、卒業論文作成に必要な力を磨くために、専門的な文献について勉強し、パワーポイントを使用したり、紙媒体の資料を作成し、研究室内で文献紹介の発表を行ってまいります。文献は教員と相談しながら選びます。通常3～10ページ程度です。発表内容についての質疑応答の時間があります。								
授業計画	第1回 オリエンテーション ゼミの進め方の説明 第2回 発表 第3回 発表 第4回 発表 第5回 発表 第6回 発表 第7回 発表 第8回 発表 第9回 発表 第10回 発表 第11回 発表 第12回 発表 第13回 発表 第14回 発表 第15回 発表								
授業の到達目標	・主に動物の生理や生態、害虫防除法、環境問題に関する知識を深めること。 ・プレゼンテーション能力を身につけること。								
授業時間外の学修	文献について説明できるように勉強し、スライドや資料を作成する。								
課題に対する フィードバック	理解や説明が不十分だった点について補足を行ったり、プレゼンテーション技術について講評を行ったりする。			評価方法		文献の内容の理解度とプレゼンテーション習熟度			
テキスト	なし								
参考書	なし								
備考	ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトを使えるようにしておく。								

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次	
教員氏名	岡島 直方				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	この授業では造園緑地専攻の応用科目として位置づけ、造園家として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高めることを目的とします。造園関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地見学等が各研究室ごとにあるいは研究室合同で行われます。認識力や表現力ならびにプレゼンテーション能力を高めることが期待されます。【知識・理解の活用】、【汎用的能力、多様な課題発見】							
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」、「専攻演習Ⅱ」、「専攻演習Ⅲ」、「卒業論文」が一連の授業体系を構成しています。							
授業の進め方と方法	教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習。 樹林地実習では、実技体験を行う。							
授業計画	第1回 ガイダンス、造園家の仕事・役割の再認識 第2回 造園の基礎知識(文献講読) 第3回 造園の基礎技能(ヒーリングガーデンの維持管理) 第4回 造園の応用知識その1(文献講読) 第5回 造園の応用知識その2(テキスト演習) 第6回 造園の応用技能その3(ヒーリングガーデンの維持管理) 第7回 造園の応用知識その4(事例研究) 第8回 造園の応用知識その5(事例研究) 第9回 造園の技能技能士関連の演習その1 第10回 造園の技能技能士関連の演習その2 第11回 造園計画演習 第12回 造園緑地の情報収集その1(WEB) 第13回 造園緑地の情報収集その2(フィールド調査) 第14回 造園緑地の情報収集その3(フィールド調査) 第15回 造園緑地の計算処理							
授業の到達目標	1.現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性を身につける。 【専門分野のスキル】【課題発見。分析・解決力】【実践力】 2.プレゼンテーション能力など、造園家に不可欠な素養を高めることが期待される。 【プレゼンテーション力】							
授業時間外の学修	レポートを出すので1つにつき、最低約1時間、課題に取り組んでください。							
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組み に対するコメントを行います。			評価方法	参加態度(70点) レポート(30点)			
テキスト	プリントなどを配布							
参考書	造園施工管理技術編/社団法人 日本公園緑地協会 ランドスケープ研究 日本造園学会 など							
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に紹介する。							

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	林 典生					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	幅広い教養と専門性を持ち、様々な人々の立場や文化を理解した上で、柔軟な思考に基づいて建設的な意見および行動により、一緒に問題解決を行える人材を育てるために以下の内容で授業を行う。 1. 研究室の活動を理解した上で、卒業論文のテーマを明確化すること 2. 研究室の様々な活動を行う上で必要なコミュニケーションスキルを受講生自身確認・把握した上で、課題に取り組むこと 3. 活動現場におけるケースマネジメントについて理解して、実践活動の流れを理解すること 4. 活動現場を取り巻く周囲の状況の強みと改善したいところを把握して、それを踏まえて活動現場と意見交換が出来るようにすること 【知識・理解の活用】、【汎用的能力、多様な課題発見】								
関連する科目	教養科目・教職科目も含めた環境園芸学部開講科目、特に履修後は専攻演習Ⅱ・Ⅲ及び卒業論文を履修すること								
授業の進め方と方法	研究室に配属された学生の都合の良い曜日時間を決め、指定した文献を読んで、まとめたものを発表すると共に意見交換を行う。また、意見交換した内容を記録を取り、文章確認の後に配布することで、今後の学生の気づきを促す。まとめた文章について意見交換した内容の記録に基づき文章などを修正して提出する。								
授業計画	1. 専攻演習の進め方に関する説明、課題提示および説明 専攻演習の説明を行い、実施方法の確認を行う。 2. 社会園芸研究室の取り組みに関する卒業論文を要約・説明および意見交換)1回目 受講生が興味のある論文を選び、発表・意見交換を行う。 3. 社会園芸研究室の取り組みに関する卒業論文を要約・説明および意見交換)2回目 前回到引き続き、受講生が興味のある論文を選び、発表・意見交換を行う。 4. 活動現場に必要なコミュニケーション演習(ロールプレイ) 事例を用いて、コミュニケーションの大切さを理解する。 5. 活動現場に必要なコミュニケーション演習(グループワーク) 事例を用いて、グループワークの取り組み方を学習する。 6. 文献購読”相談援助の視座と社会福祉援助の展開過程”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 7. 文献購読”実践のためのアプローチ”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 8. 文献購読”自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 9. 活動現場におけるケースマネジメント作成演習(活動現場で大事なことを事前に資料を作成し、説明する) 事例を用いて、説明する資料作成を行う演習を通じて、ケースマネジメントの進め方を理解する。 10. 活動現場におけるケースマネジメント作成演習(活動現場で大事なことを事前に資料を作成し、説明する) 前回到作成した、資料を用いて説明・意見交換を行うことで、根拠をもって説明することを理解する。 11. 文献購読”社会資源の理解と社会資源開発”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 12. 文献購読”連携システムのあり方とネットワーク構築”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 13. 文献購読”地域における福祉政策と福祉計画”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 14. 文献購読”社会福祉調査の方法と実際”を読んで、説明および意見交換 指定された書籍を読んでまとめた発表・意見交換を行う。 15. 活動現場に関する社会調査を行いレポートにして提出 上記で学んだことを生かして社会調査を行い、調査結果をまとめ、レポートにして提出する。								
授業の到達目標	研究室の活動内容を理解すると共に、活動現場そのものや周囲の状況について理解して、活動実践に理解して実践出来るようにする。								
授業時間外の学修	毎回の授業終了時に、事前課題を提出するのでそれを調べて、まとめたレポートを作成すること(目安時間は1時間以内)。また、授業終了後に授業内容に関する事後課題を提出するので、それを調査し考えたことをまとめたレポートを作成する(目安時間は1時間以内)。								
課題に対する フィードバック	提出物等は随時、本人にコメントをつけて返却するとともに、発表会等の場面も含め、様々な方と意見交換を実施する。				評価方法	授業開始中におけるコメント・事前事後課題 15回×3点 計45点、発表レポート 6回×5点 計 30点 社会調査レポート 計25点 合計100点で成績評価を行う。			
テキスト	新社会福祉援助の共通基盤上・下巻(第2版) 2009 日本社会福祉士会 中央法規								
参考書	国民の福祉と介護の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 Horticulture as Therapy: Principles and Practice 1998 Sharon Simson, Martha Straus CRC Press (都城キャンパス図書館に所蔵あり) 生活行為向上力の見つけ方(一作業・環境・園芸療法の理論とプログラム) 2015 藤原茂・山口県園芸療法研究会 青海社								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	専攻演習Ⅰ [Laboratory Seminar, Part 1]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710093	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		3年次	
教員氏名	中野 光議					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	本演習の目的は、卒業研究を行うために必要な知識と技能を養うことです。 本演習では、科学的な研究を行うための方法、および論文の書き方について学びます。また、卒業研究のテーマを設定し、研究計画を作成します。各自の卒業研究のテーマと関係が深い論文を批判的に読み、自分の研究に活用する練習を行います。								
関連する科目	本演習の目的は、卒業研究を行うために必要な知識と技能を養うことです。 本演習では、科学的な研究を行うための方法、および論文の書き方について学びます。また、卒業研究のテーマを設定し、研究計画を作成します。各自の卒業研究のテーマと関係が深い論文を批判的に読み、自分の研究に活用する練習を行います。								
授業の進め方と方法	毎回の授業で、各自の卒業研究のテーマと関係が深い論文を読み、その論文についてレポートを書きます。								
授業計画	第1回 論文の収集と読解の方法 第2回 英語論文の読解 第3回 論文の書き方(1)タイトル 第4回 論文の書き方(2)はじめに 第5回 論文の書き方(3)方法 第6回 論文の書き方(4)結果 第7回 論文の書き方(5)考察 第8回 客観的な文章の書き方 学術論文の読み方と書き方について学びます。 第9回 仮説―検証型の研究 第10回 統計解析 第11回 フィールドワークの安全管理 科学的な調査・実験を行うための方法について解説します。 第12回 研究のゴールとプロセスの設定 第13回 研究テーマの構造化 第14回 研究構想の作成 第15回 研究計画の作成 卒業研究のテーマを選定し、研究計画を作成します。								
授業の到達目標	1. 卒業研究として取り組みたい研究テーマを選定し、研究計画を作成します。 2. 卒業研究の遂行と論文の作成に必要な知識と技能を習得します【汎用的技能の育成】。								
授業時間外の学修	毎回の授業終了後、論文を読んでレポートを作成するために、1時間程度を要します。								
課題に対する フィードバック	不明な点・疑問点については、日常的にアドバイス、指導を行います。			評価方法		レポートと研究計画書で評価します。			
テキスト	『研究の育て方』近藤克則 著(医学書院)								
参考書	なし								
備考									